

ルール・ガイドライン整備チーム

# PI 泣かせの研究データ管理を DMPベースで如何にアシストするか

－ 研究データ管理において PI が抱える課題 －

松原 茂樹

(名古屋大学情報基盤センター)

# (前提) 研究室の活動と研究データ

## • 研究方略の典型

- 「データセット作成・入手」 ⇒ 「モデル生成」 ⇒ 「評価セットで効果検証」

## • 研究メンバーとプロジェクト

- 教員（2名）, 学生（10数名）, 共同研究者（数名）
- 学生と教員を含んだ **3** 名 以上で構成されるプロジェクトが **10** 個程度

## • 研究データ

### 準備～実験

- データセット
- プログラムコード
- 実験記録


### 報告・共有

- 報告資料
- 参考文献
- 出力データ

### 成果公表

- スライド, ポスター
- 学術論文
- 研究データ

# 「研究室」のルール

- 研究データ管理
  - **個人管理**（ローカル, クラウド）
  - **研究室管理**（ローカル, クラウド,  GakuNin RDM）
  - **大学管理**（機関リポジトリ, 研究データ保管システム）

## 日常（保管・共有）

- 保管：ローカル/クラウド
- 共有：クラウド

## 発表（公開・利活用）

- 公開：機関リポジトリ
- 利活用： GakuNin RDM

## 離籍（長期保存）

- 長期保存：ローカル, 研究データ保管システム

# 「大学」の方針・指針（計画，保存，公開）

## 研究データの管理・公開・利活用ガイドライン [2025.3]

<https://rdm.nagoya-u.ac.jp/html/research-data-guidelines-open/>

- PI の役割と責任を明記

### • 研究データの**管理計画**（DMP）

- **名古屋大学 DMP ガイドブック** ※策定中

- プロジェクトの管理ポリシー（格納場所や共有設定）、データごとの管理計画

### • 研究データの**長期保存**

- **名古屋大学 研究不正防止策**（研究データ10年保存の実効性）

<https://www.aip.nagoya-u.ac.jp/risk-management/fair/fair>

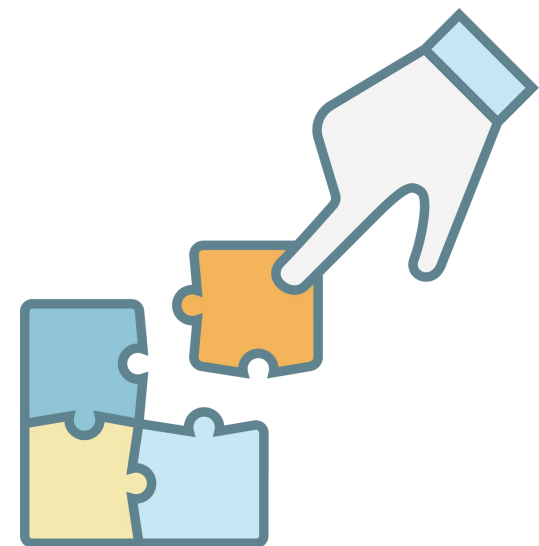
- 責任著者（≒PI）は、**研究データ保管システム**に論文と根拠データを保存

### • 研究データの**公開**

- **名古屋大学 学術機関リポジトリ**（を推奨）

<https://nagoya.repo.nii.ac.jp/page/data>

- **リポジトリ登録申請フォーム**にメタ情報を記入



# 「PI 泣かせの研究データ管理」とその解決



1. **（実施時）** DMPが**グループ内に周知**徹底される
  - DMPの目的：研究グループの**メンバーが迷わず行動できる**こと
  - 研究データ基盤において**DMPが中心的役割**を担うこと
2. **（公開時）** DMPに**研究データのメタ情報**が記録される
  - 生成/利用した研究データの**経緯・ライセンス・機密性**等の情報
  - オープン・アンド・クローズ戦略の実践
3. **（長期保存時）** DMP に**データ管理状況**が反映されている
  - 研究の進展に合わせ研究データの管理計画を更新できること
  - **論文と研究データ間の関係**が明示されること（が望ましい）